

3. 新コントロールソフトウェア「CXDI-NE Ver.2.0」の使用経験

- アプリケーション・ツール：CXDIコントロールソフトウェアNE Ver.2.0
- メーカー：キヤノン

高橋 宏幸 / 谷脇 貴博 社会医療法人近森会 近森病院画像診断センター

当院では、2003年に一般撮影2室にキヤノン社製「CXDI-40G」の立位と臥位、カセットタイプの「CXDI-31」が導入された。増築時には「CXDI-50G」「CXDI-60G」「CXDI-401C」と2012年4月に完成した100床ほどの混合病棟に「CXDI-80C Wireless」と「CXDI-70C Wireless」が導入され現在に至っている。ワイヤレスタイプを採用するのは初めてであり、当院では2枚のバッテリーを予備に備え、午前、午後で差し替えて使用している。現在当院の課題となっている低被ばく撮影の条件設定について、シンチレータにヨウ化セシウム(CsI)を採用している高感度タイプのCXDI-Cシリーズを導入したことにより、当院では従来のシンチレータに希土類(GOS)を使用しているCXDI-Gシリーズと比較して約58%の線量で撮影を行えている。CXDIを制御するソフトウェアは、従来の機種を制御するCXDIコントロールソフトウェア「CXDIコントロールソフトウェアRD(以下、CXDI-RD)」と今回報告する新しくリリースされた「CXDIコントロールソフトウェアNE(以下、CXDI-NE)」が混在している。

本稿では、新しいタイプのCXDI-NE Ver.2.0について、当院で特に有用な仕様と評価している“シリーズ番号の切り替え機能”“長尺撮影用貼り合わせ機能”“検査保留機能”“その他有用な機能”の使用経験を報告する。

シリーズ番号 (Series Instance UID) の切り替え機能

当院では、従来撮影をした画像をPACSへ送信すると、撮影順にPACSへ並んでいたのが、このCXDI-NE Ver.2.0から、オーダコード順、撮影順に関係なく、検査終了前に画像の順番を入れ替えれば、その順番でPACSへ表示されるようになった(図1)。

この機能が追加されたことにより、経過観察を必要とする複数部位の撮影では、前回と撮影順を合わせるため画像を参照しながら撮影を行っていたが、それが不要となった。

また、救急オーダの全身撮影などでは、

頭部正面、脊椎正面、下肢正面など、各部位の正面を仰臥位で撮り、次に側面像や撮影可能部位をランダムに撮影していくことが多い。そのため撮影された画像は、PACS上は撮影部位別ではなく撮影順に画像が並んでいた。しかし、この機能を使えば、正面像と側面像などを同部位ごとにそろえられるため、撮影部位を確認しやすくなる。また、患者の体位変換を最小にでき、変換による負担も少なくなるため、それに費やされていた検査時間も短縮できるという利点がある。

ステッチング (長尺撮影用貼り合わせ) 機能

CXDI-NEでは、ステッチ画像の作成



図1 シリーズ番号の切り替え機能
a: 操作前 b: 操作後